

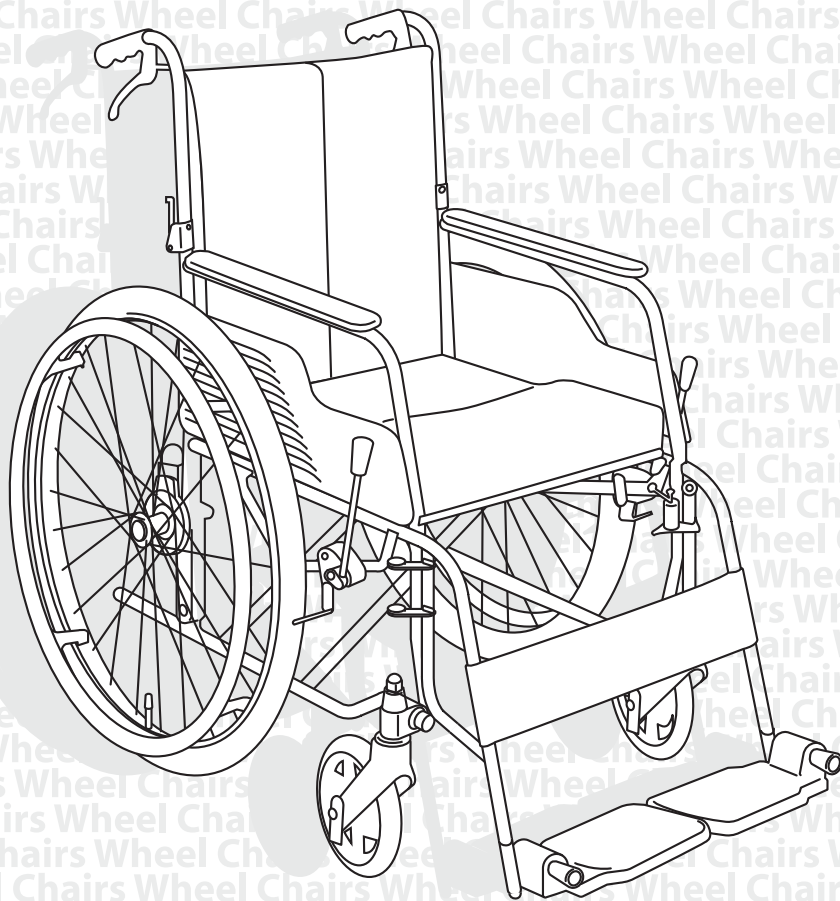
マツナガのレンタル用車いす

# 春夏秋冬シリーズ

取扱説明書

保存用

保証書付



愛の輪  
愛のいす



MATSUNAGA

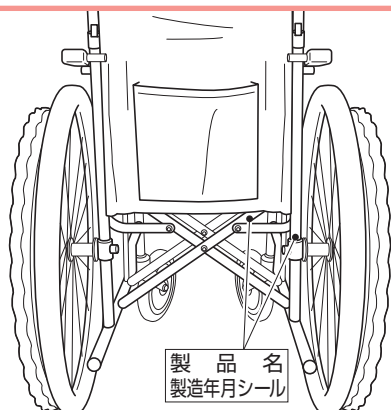
このたびは、(株)松永製作所の車いすをお買い上げいただき、ありがとうございます。  
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明されています。

ご使用になる前には、必ずお読みください。

また、保証書(裏表紙)が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。安全にご使用していただくために、点検・記録表が付いておりますので、ご自身・お買い求めの販売店(有料)等で定期的に点検をしていただくようお願いいたします。

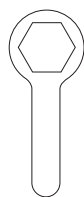
車いすが、身体に合わない状態ではご使用にならないでください。  
健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店、かかりつけの病院にご相談ください。

購入された製品の型式をご確認ください。  
型式は、下記位置に表示してあります。



## 付属品

機種によって、付属品が違います。



スパナ  
(REM-1~6、11、12)



六角レンチ(対辺5mm)  
(REM-7~10)



六角レンチ(対辺4mm)  
(REM-11、12)

●万一、不足品がありましたら、すぐにお買い上げの販売店、または弊社にご連絡ください

- お買い上げの車いすは改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または直接弊社までお問い合わせください。

## ご使用前に

出荷時には検査をしておりますが、ご使用前に次のご確認をお願いいたします。

- 箱が破損したり、濡れたりしていないか。
- 各部の破損・キズ、フレームのゆがみ、ボルト・ナットや部品の脱落はないか。
- 付属品はすべて揃っているか。
- タイヤの空気圧は適正か。(タイヤを指で押さえ確認してください。)(P.8参照)

**もし異常があればご使用にならず、すぐにお買い求めの販売店または、弊社までご連絡ください。**

# 目次 (自走用 / 介助用標準形バージョン)

<b>安全にお使いになるためのご注意</b> .....	2
<b>各機種別寸法一覧</b> .....	4
<b>各機種別機能一覧</b> .....	4
<b>車いすの寸法変更マニュアル</b> .....	5
<b>各部の名称</b> .....	6
<b>機能説明</b> .....	7
<b>ご使用方法</b> .....	8
ご使用の前に .....	8
拡げ方 .....	8
折りたたみ方 .....	10
リクライニングタイプの拡げ方 .....	11
リクライニングタイプの折りたたみ方 .....	12
乗り方・降り方 .....	13
動かし方 .....	14
介助の仕方 .....	15
外出時の注意 .....	16
その他の注意 .....	17
<b>各部機能の使用方法</b> .....	18
ブレーキの使用方法 .....	18
フットサポートの高さ調整 .....	19
フット・レッグサポートエレベーター .....	20
レッグサポートスイングアウト .....	22
バックサポートのリクライニング方法 .....	22
アームサポート着脱 .....	24
アームサポート跳ね上げタイプ .....	24
背調整マジックベルト張り調整 .....	25
転倒防止 .....	25
安全ベルト .....	25
<b>もしこんなトラブルが発生したときは</b> .....	26
<b>車いすのお手入れの方法</b> .....	26
保管場所・保証・アフターサービス .....	27
車いす点検シート .....	28

# 安全にお使いになるためのご注意



## 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



## 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。



## 警告

(禁止)



しては  
いけない

- 故障、異常のあるときは、直ちに使用を中止してください。  
事故、転倒・転落によるケガ等の原因となります。
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。  
ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故等の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。
- バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けないでください。
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。  
車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすのシートの上で立ちあがらないでください。  
転倒・転落事故等の原因となります。

(強制)



必ずして  
いただく

- バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ていることを確認してください。  
急にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすに乗る・降りる前やベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。  
車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。
- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者に支えていただいで行ってください。  
車輪が溝にはまって、転倒・転落事故等の原因となります。
- リクライニングの角度調整をする時は、駐車用ブレーキをロックしてください。  
車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。
- リクライニングレバーを左右同時に握りながら角度調整をしてください。  
転倒・転落事故等の原因となります。





## 注意

(禁止)



しては  
いけない

- リクライニングの連結バーが車輪(スポーク)にあたらないようにしてください。
- バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。  
車いすが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすを上げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。  
パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。  
駐車用ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。
- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。  
摩擦で手にケガをする恐れがあります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。  
バランスが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。  
手や指をはさんで、ケガをする原因となります。
- バックしながら急停止しないでください。  
転倒・転落事故等の原因となります。
- 凹凸のある路面では、前かがみの姿勢で使用しないでください。  
バランスを崩し、前に転倒・転落事故等の原因となります。
- バックサポートパイプ(グリップ)のみで、キャストを上げないでください。  
バックサポートパイプが曲がったり折れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。  
使用者が車いすから転倒・転落し事故等の原因となります。
- バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って持ち上げないでください。  
パイプが外れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすを横向きに倒して、上に物を置かないでください。  
重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因となります。

<p><b>(禁止)</b></p>  <p>しては いけない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■火気の近くに置かないでください。 タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。</li> <li>■急ブレーキをかけないでください。 車いすに乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。</li> <li>■すき間がある状態で使用するとフットサポートが外れケガをすることがあります。</li> <li>■アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。 ケガ、転倒・転落事故等の原因となります。</li> <li>■アームサポートを跳ね上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。 破損等の原因となります。</li> <li>■リクライニングの連結バーを外したまま、使用しないでください。 転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。</li> <li>■リクライニングのヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。 転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。</li> <li>■リクライニング車いすの連結バー・ヘッドサポート部を持って、走行しないでください。 外れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。</li> </ul>
<p><b>(強制)</b></p>  <p>必ずして いただく</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヘッドサポートのロックを確実にかけてください。 外れて、転倒・転落事故等の原因となります。</li> <li>■必ずヘッドサポートを取り付けてご使用ください。 パイプ差込口で手や頭にケガをする原因となります。また、フレーム強度が低下し、破損の原因となります。</li> <li>■車いすを上げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。 パイプが曲がったりして、転倒・転落事故等の原因となります。</li> <li>■車いすを折りたたむ際には、バックサポートのポケットの中に物が入っていないことを確認してください。 ポケットの中の物が破損したり、車いすの故障の原因となります。</li> <li>■車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。 車いすが動いてバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。</li> <li>■坂道を下るとき介助者は、下り坂の下側に立ち、確認しながら後ろ向きにゆっくりと走行してください。 前向きで下ると、乗っている人がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。</li> <li>■側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。 車いすが急に止まり、使用者の体が前方に傾き、転倒・転落事故等の原因となります。</li> <li>■移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。</li> <li>■フットサポートに、足が持っているか確認して走行してください。</li> <li>■介助者の方は、制動用ブレーキを両側同時にかけてください。 バランスを崩し、転倒事故等の原因となります。</li> <li>■制動用ブレーキレバーを握る際には指を挟まないようにしてください。</li> <li>■必ず後輪が動かないことを確認してから手を離してください。 車いすが動き、事故等の原因となります。</li> <li>■フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。 路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒事故等の原因となります。</li> <li>■フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。 フットサポートが脱落し、事故、ケガ等の原因となります。</li> <li>■スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。 足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。</li> <li>■スイングアウトや着脱・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。</li> <li>■アームサポートを取り付けたときは、完全にロックしている事を確認してください。 転落事故等の原因となります。</li> <li>■安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。 衝撃などで転落し事故等の原因となります。</li> <li>■安全ベルトのマジック式は、糸くずや汚れを取り除いてください。 粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時、外れ転落事故等の原因となります。</li> <li>■車いすに使用者が乗っている状態で、リクライニング操作する時は、使用者の体重がバックサポートにかかっているので、介助者はしっかり支えて行ってください。 操作したときに、急にバックサポートが倒れパイプで顔などを打ってケガをする恐れがあります。</li> <li>■ふくらはぎパッドを回転させたときに、手・指をはさまないように注意してください。</li> <li>■調整ボルトは必ずしっかりと締めてください。 ふくらはぎパッドが外れ、ケガをする恐れがあります。</li> <li>■エレベータリングのフットサポートに足が乗ったままの状態でも操作する場合は、フット・レッグサポートパイプをしっかり支えて行ってください。 ロックを解除した時に、手をパイプに挟んでケガをする原因となります。</li> </ul>

# 各機種別寸法一覧

品番	キャスト [インチ]	大車輪 [インチ]	全高 [mm]	全長 [mm]	全幅 [mm]	折りたたみ全幅 [mm]	重量 [kg]
REM-1(自走)	6	22×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	905	990	665	330	15.7
REM-1(介助)	6	16×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	905	970	575	250	13.8
REM-2(自走)	6	22×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	905	990	665	330	15.4
REM-2(介助)	6	16×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	905	975	575	250	13.7
REM-3	7	22×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	895	1,015	595	330	15.7
REM-4	7	16×1.75	890	1,010	525	250	14.2
REM-5	6	22×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	870	1,015	595	330	15.5
REM-6	6	14×1.75	865	1,020	525	250	14.0
REM-7	6	22×1	940	990	600	300	14.0
REM-8	6	12×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	850	980	530	250	12.5
REM-9	6	22×1	840	990	600	300	12.8
REM-10	6	12×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	850	980	530	250	11.3

品番	キャスト [インチ]	大車輪 [インチ]	全高 [mm]	全長 [mm]	全幅 [mm]	折りたたみ全幅 [mm]	重量 [kg]	リクライニング角度 [°]
REM-11	7	24×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	1,280	1,125	665	310	20.4	95~160°
REM-12	7	16×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	1,280	1,060	575	250	18.6	95~160°

※フット長：フットサポートシート間距離

※寸法値はシート幅が400mm時の数値です。

※座幅変更や設定によって寸法は変動します。

※背折りたたみタイプの背折れ状態では、全高が約220mm低くなります。

◎改良のため予告なしに仕様を変更する事があります

# 各機種別機能一覧

品番	自走	介助	制動用ブレーキ	フットブレーキ	背折りたたみ	背シート張り調整	肘跳ね上げ	スイングアウト
REM-1(自走)	●		●		●	●		●
REM-1(介助)		●	●		●	●		●
REM-2(自走)	●		●		●	●		
REM-2(介助)		●	●		●	●		
REM-3	●		●	●	●	●	●	●
REM-4		●	●	●	●	●	●	●
REM-5	●		●	●	●	●	●	●
REM-6		●	●	●	●	●	●	●
REM-7	●				●	●		
REM-8		●	●		●	●		
REM-9	●				●			
REM-10		●	●		●			

品番	自走	介助	制動用ブレーキ	肘脱着	リクライニング	エレベーター
REM-11	●			●	●	●
REM-12		●	●	●	●	●

# 車いすの寸法変更マニュアル(REM-1/REM-2)

## 座高の変更

●キャスト・大車輪のサイズの変更や、取り付け位置を変更することにより、車いすの座高を変更することができます。また、自走⇔介助タイプの変更も可能です。

	前座高[mm]	後座高[mm]	キャストサイズ[インチ]	大車輪サイズ[インチ]	キャストブロック位置	アジャスタブルフォーク位置	車軸位置			
REM-1	375	355	5	20	上	Ⓐ	①			
	400					Ⓑ				
	410					Ⓒ				
	420	400	7	24		Ⓓ				
			6			Ⓔ				
			7			Ⓕ				
	430	400	6	24		Ⓖ				
	440		7			Ⓗ				
	REM-2	400	380	6		16		下	Ⓖ	③
								上	Ⓗ	
410		420	7	22	下	Ⓖ	②			
440					上	Ⓗ				
450	440	7	24	下	Ⓖ	④				
460					Ⓗ					

※調整は、しないでください。どうしても調整が必要な場合は、お買い求めの販売店または、直接弊社までご相談ください。  
 ※寸法一覧に記載している組み合わせ色付き部です。 ※前座高・後座高の寸法表はパイプ上の高さです。

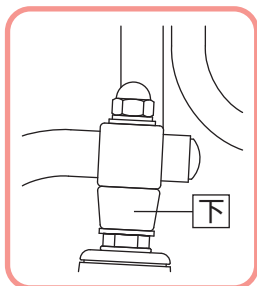
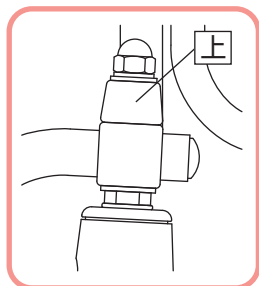


### 注意

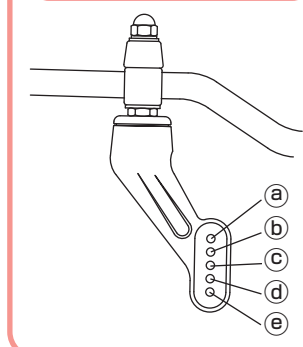
●上記の組み合わせ以外では使用しないでください。

してはいけない

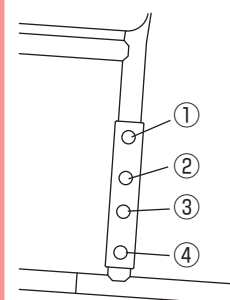
#### キャストブロックの組み合わせ



#### アジャスタブルフォーク



#### 車軸位置



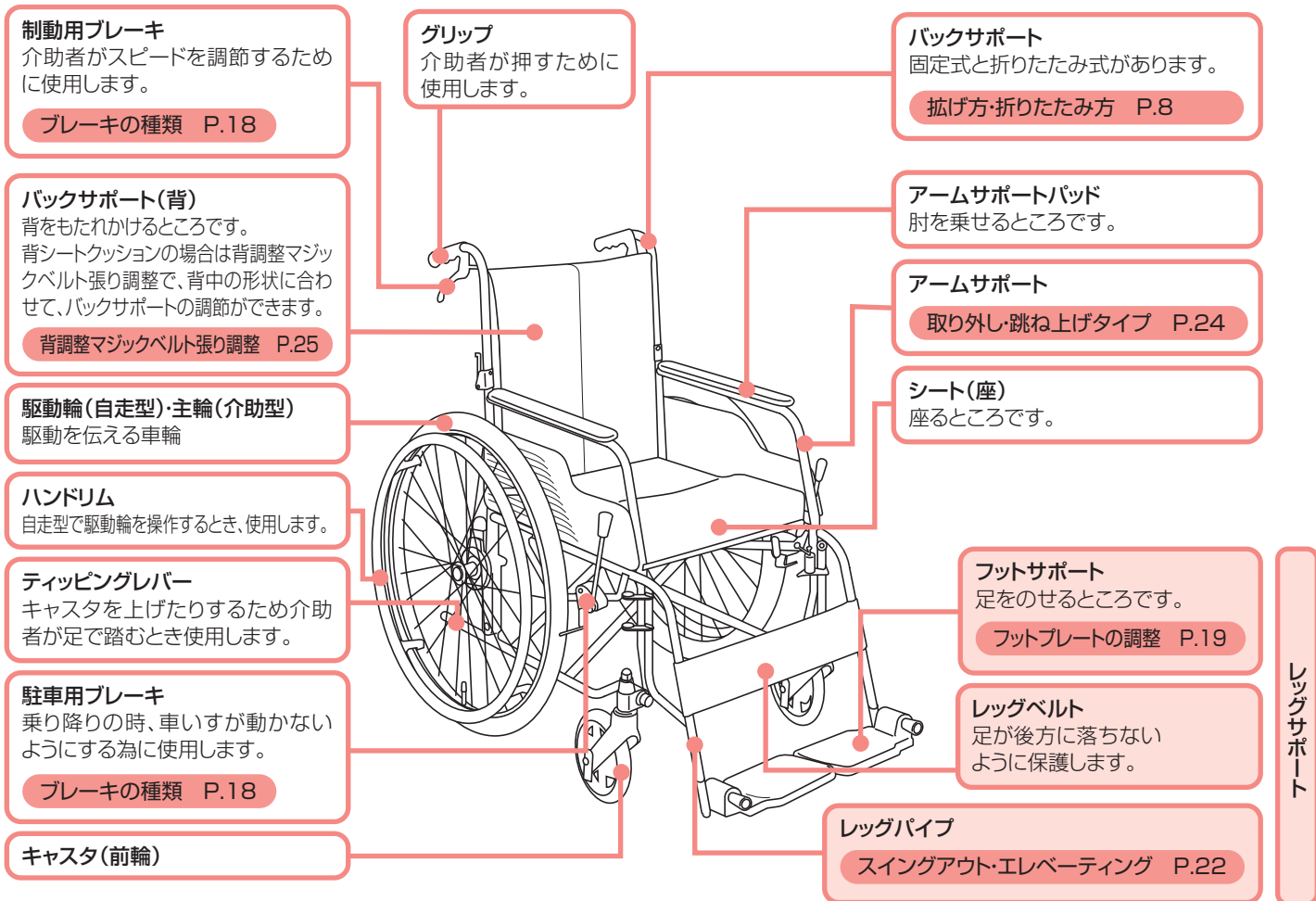
キャスト

介助型

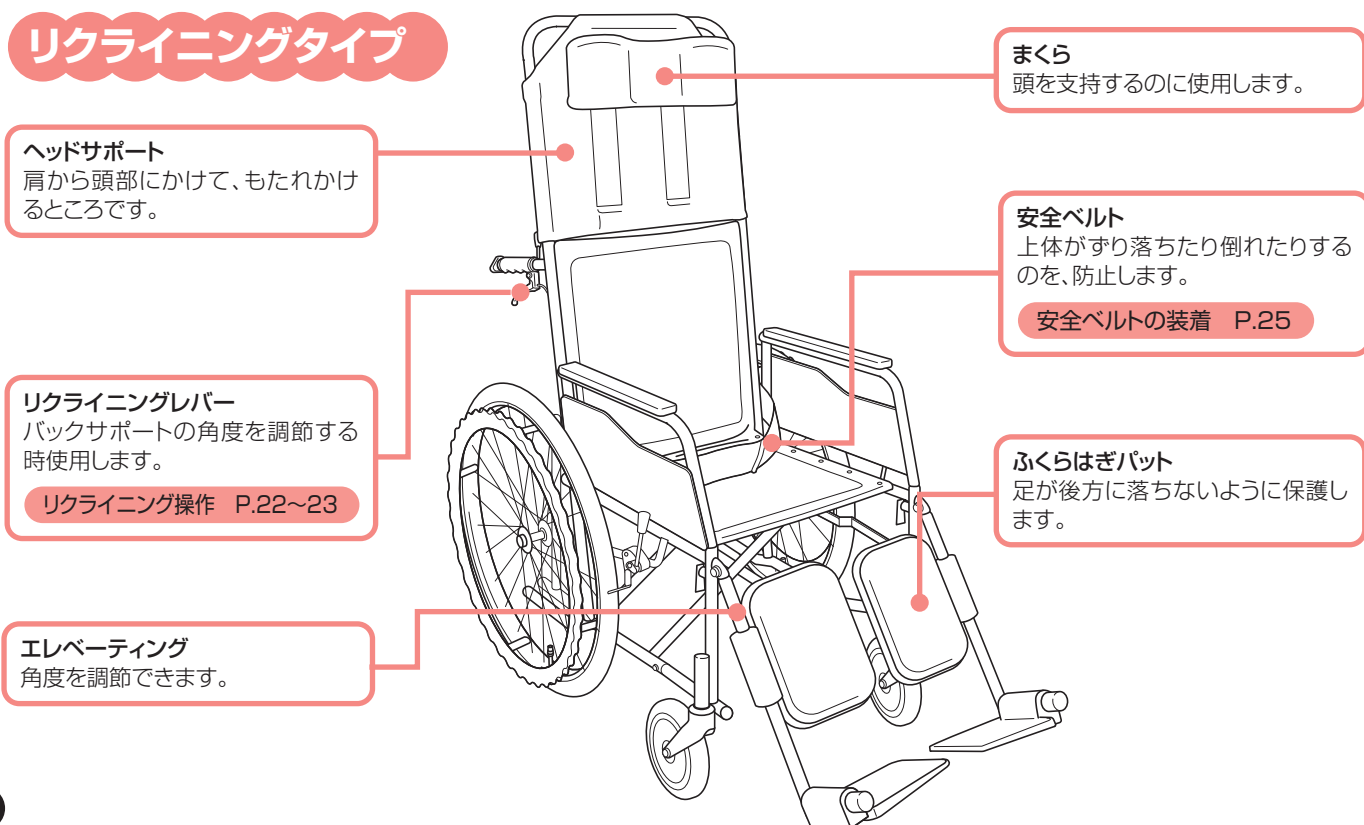
自走型

# 各部の名称

## 自走用／介助用標準型



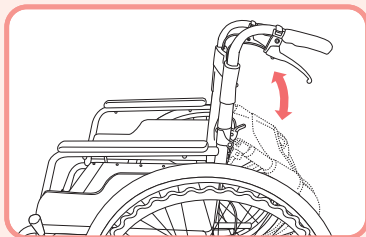
## リクライニングタイプ





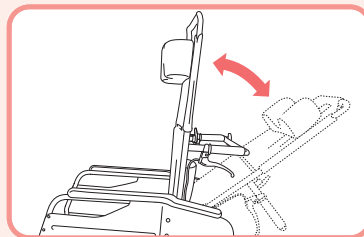
# 機能説明

## 〈バックサポート〉



### 折りたたみ

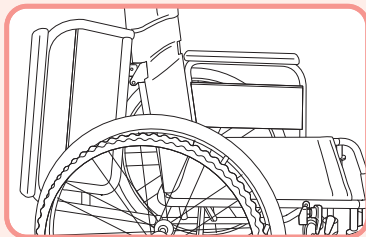
バックサポートパイプを折りたたみすることができ、自動車等への積み込みが容易に行えます。



### リクライニング

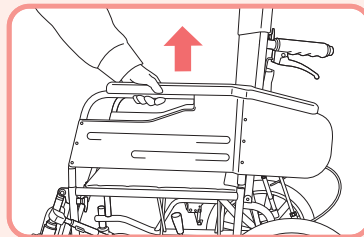
レバー操作によって、バックサポートの角度が調節できます。

## 〈アームサポート〉



### 跳ね上げ

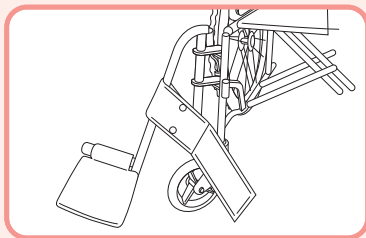
簡単なワンタッチ操作でアームサポートの跳ね上げができます。さらにアームサポートを取り外すこともできます。ベッド等の移乗時に大変便利です。介助軽減にも役立ちます。



### 着脱

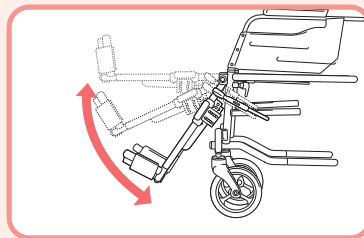
アームサポートが完全に取り外し可能です。介助軽減にも役立ちます。

## 〈フット・レッグサポート〉



### スイングアウト

フット・レッグサポート部が開閉でき着脱可能です。ベッド、便器等への接近が容易です。片手片足操作にも適しています。樹脂製で、操作も簡単です。

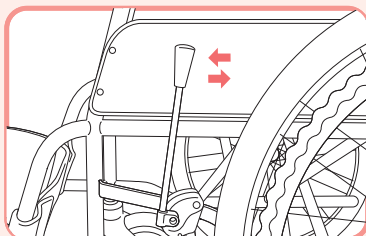


### エレベータリング

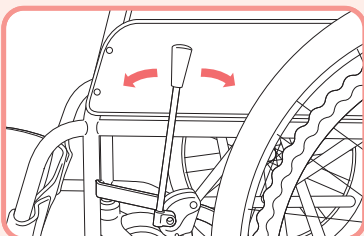
フット・レッグサポート部の角度が調節可能です。足が硬直、変型している方に最適です。新タイプは、ふくらはぎパットの位置調節が可能です。

## 〈駐車用ブレーキ〉

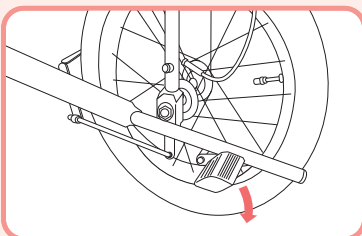
### ミニタックル



### FBタックル

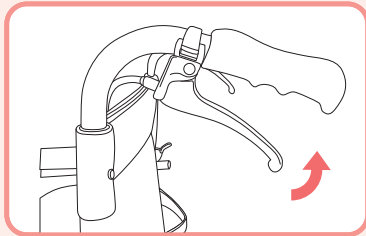


### フットブレーキ



車いすが動かないようにする時に使用します。介助型は、車いす後方から操作できます。

## 〈制動用ブレーキ〉



### 制動用ブレーキレバー

介助者が走行中(下り坂)の減速・停止に便利です。

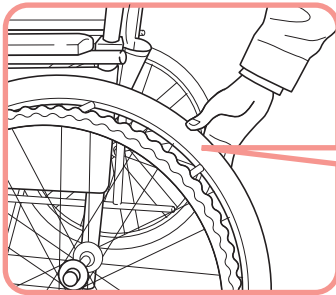
# ご使用方法

## ご使用の前に

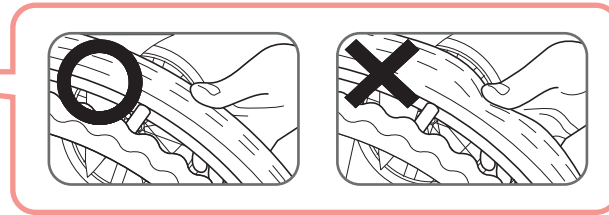
■ご使用前に、安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- ・タイヤの空気圧は適正か。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。

タイヤサイズ [インチ]	適正空気圧
12×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	350kPa(3.5kgf/cm <sup>2</sup> )
14×1.75	
16×1.75	
16×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	
20×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	700kPa(7.0kgf/cm <sup>2</sup> )
22×1	
22×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	350kPa(3.5kgf/cm <sup>2</sup> )
24×1 <sup>3</sup> / <sub>8</sub>	

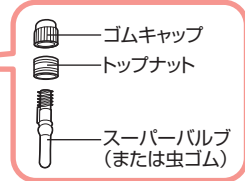
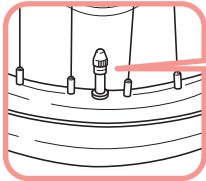


タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、自転車用空気入れで空気を補充してください。



タイヤの空気バルブのトップナットが緩んでいないか確認してください。

タイヤの空気がすぐに抜けるときは、スーパーバルブ(または虫ゴム)を交換してください。



### 警告

●タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。  
(ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故等の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。)

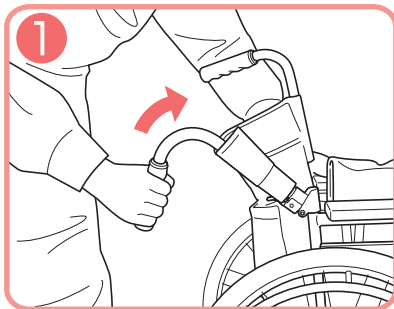
してはいけない

## 広げ方

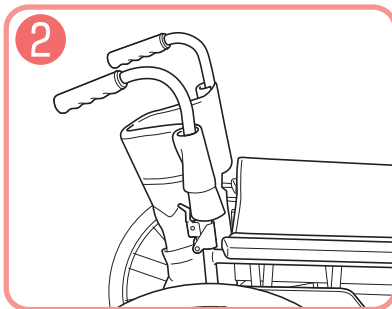
バックサポート固定の場合は、手順③から行ってください。

\*バックサポート折りたたみを起こす際は、必ず車いすを折りたたんだ状態で行ってください。  
(広げた状態で行くと、バックサポートがバックサポートパイプに引っ張られ、ロック出来なくなります。)

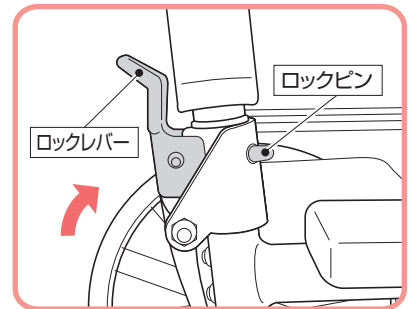
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げます。



② バックサポートを両側起こします。



ロックレバーを矢印方向に起こします。



### 警告

●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ていることを確認してください。  
(急にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

## ⚠ 注意

- バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。  
(車いすが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。)

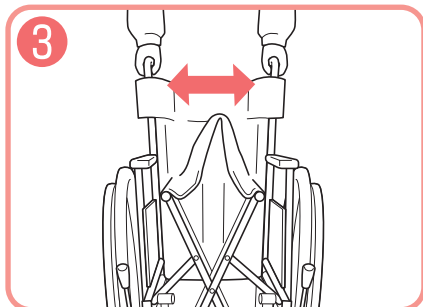
してはいけない

## ⚠ 警告

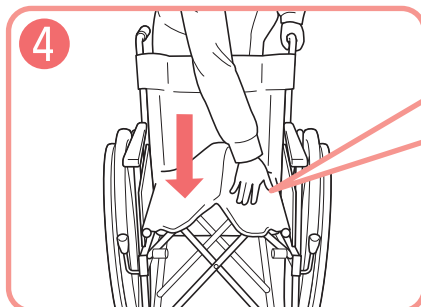
- バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けないでください。

してはいけない

- ③ 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げます。



- ④ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、車いすが拡がります。



※手・指に注意

## ⚠ 注意

- 車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。  
(パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。)

してはいけない

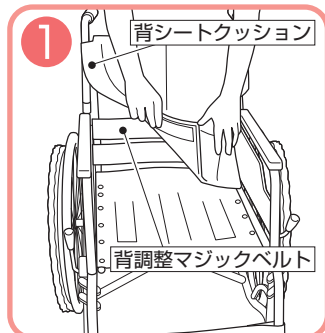
## ⚠ 注意

- 車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。  
(パイプが曲がったりして、転倒・転落事故等の原因になります。)

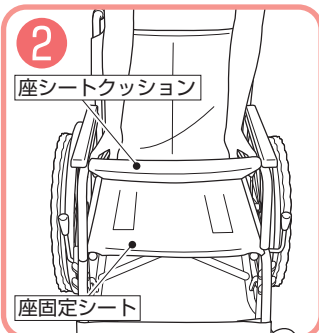
していただく

- クッションシートの装着機種の場合は、車いすを拡げた後クッションの装着をして下さい。

- ① 背シートクッションを調整マジックベルトに固定する。



- ② 座シートクッションを、固定シートに固定する。



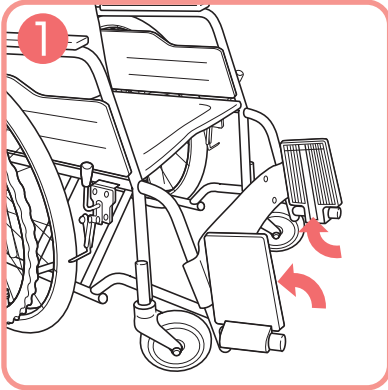
## ⚠ 注意

- 背シート・座シートクッションのマジックテープは確実に固定して下さい。  
(固定がしていないと、シートがズれて、転倒事故の原因となります。)
- マジックテープに付いた、糸くずや汚れを取り除いて下さい。  
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時、外れ転倒事故の原因となります。)

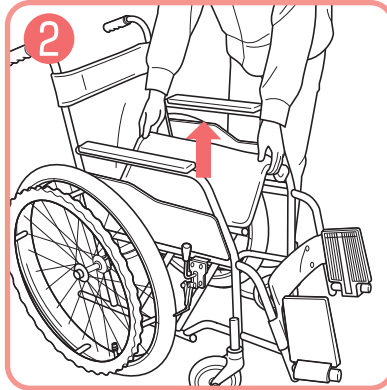
していただく

## 折りたたみ方

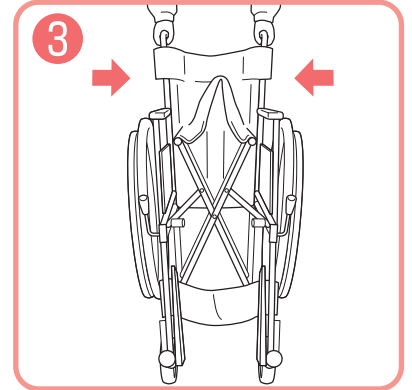
① フットサポートを矢印方向に回転させて上げます。



② シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げます。

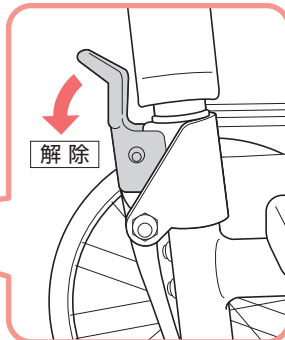
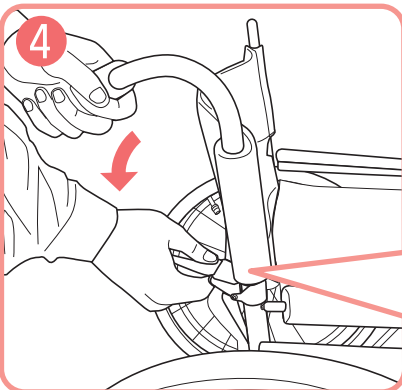


③ 左右のグリップを持ち内側にたたみます。

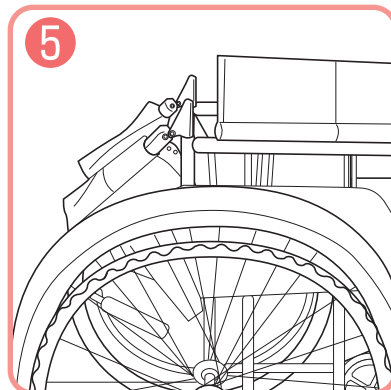


バックサポートが折りたたみの場合は、次の手順を行うとさらに小さく折りたたむことができます。

④ グリップを片手で持ち、ロックレバーを後方に倒し、バックサポートを倒します。



⑤ バックサポートを両側後方に倒します。



### ⚠ 注意

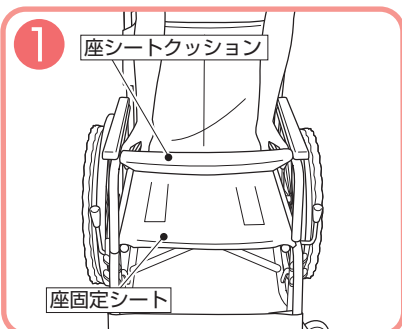
● 車いすを折りたたむ際には、バックサポートのポケットの中に物が入っていないことを確認してください。

(ポケットの中の物が破損したり、車いすの故障の原因となります。)

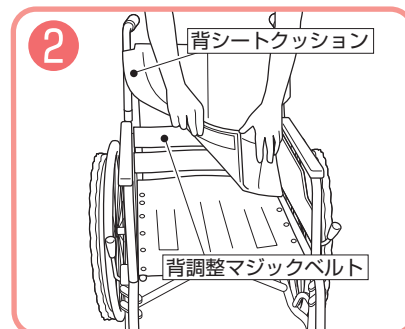
していただく

● 座シートクッションの装着機種の場合は、車いすを折りたたむ場合は座シートクッションを外してから、車いすを折りたたんで下さい。

① 座シートクッションを外す。



② 背シートクッションを外す。



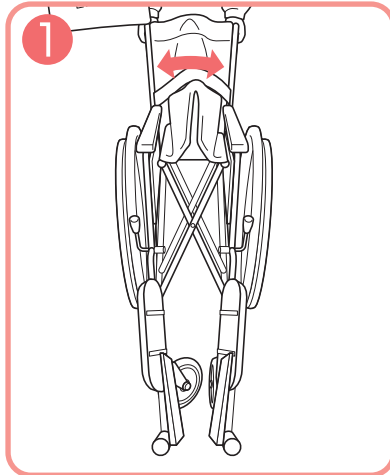
### ⚠ 注意

● 外した背・座クッションを紛失しないようにしてください。

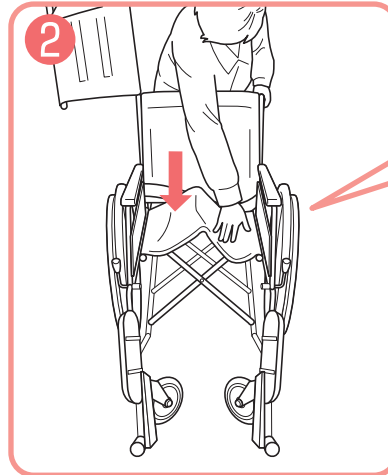
していただく

## リクライニングタイプの拡げ方

① 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げる。

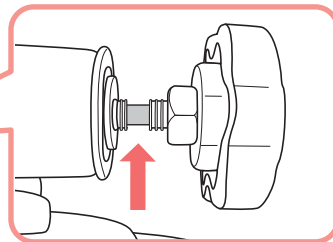
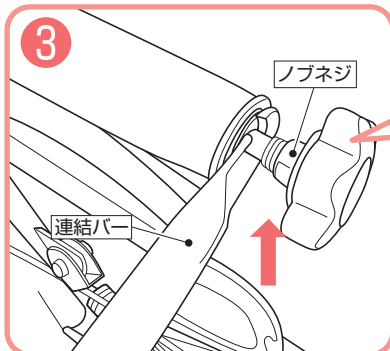


② 片側のグリップを手で持ちシートを手で下に押し下げるとシートが拡がります。



※手・指に注意

③ 連結バーをノブネジで固定する。



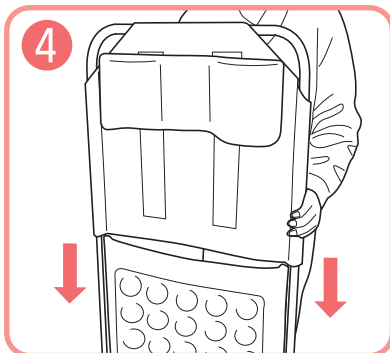
ノブネジの細い部分に連結バーをはめてから、ネジを締めてください。

### ⚠ 注意

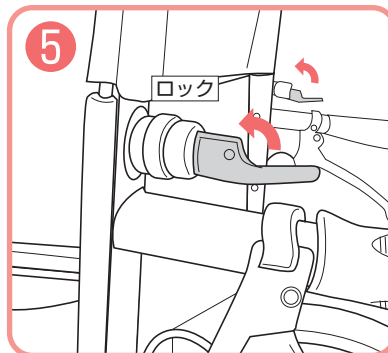
●リクライニングの連結バーのノブネジは、確実に固定してください。  
(外れて、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

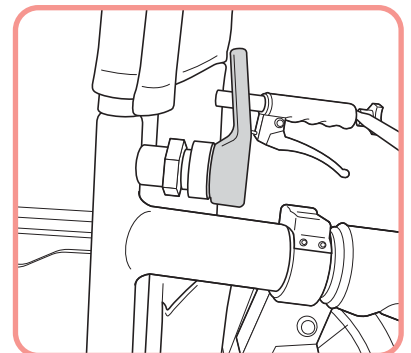
④ ヘッドサポートを取り付ける。



⑤ ロックレバーのロックを確認する。



(ロックした状態)



### ⚠ 注意

●ヘッドサポートのロックを確実にかけてください。  
(外れて、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

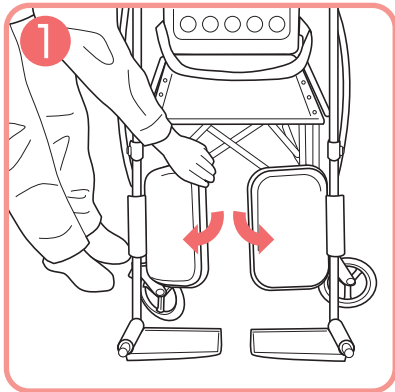
### ⚠ 注意

●必ずヘッドサポートを取り付けてご使用ください。  
(パイプ差込口で手や頭にケガをする原因となります。また、フレーム強度が低下し、破損の原因となります。)

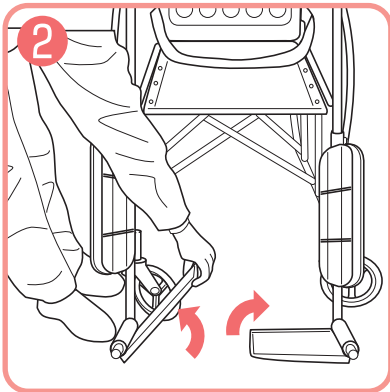
していただく

## リクライニングタイプの折りたたみ方

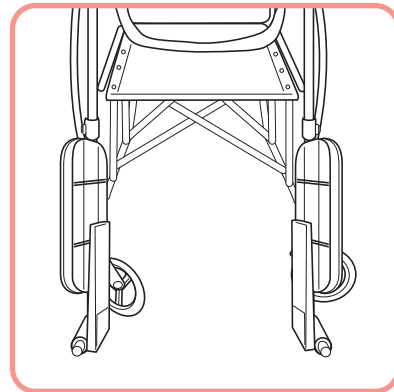
① ふくらはぎパットを跳ね上げます。



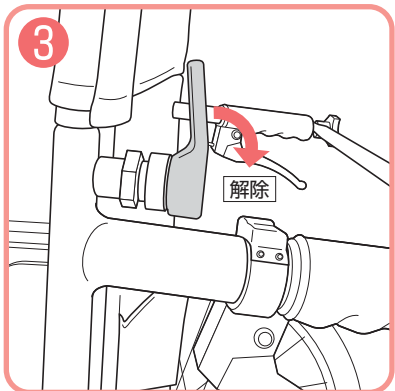
② フットサポートを跳ね上げます。



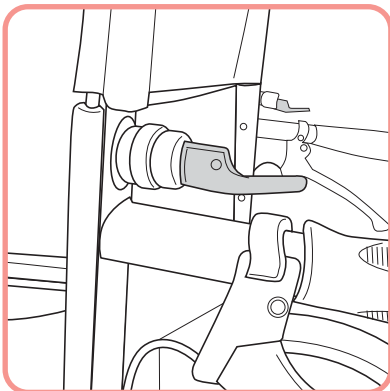
(跳ね上げた状態)



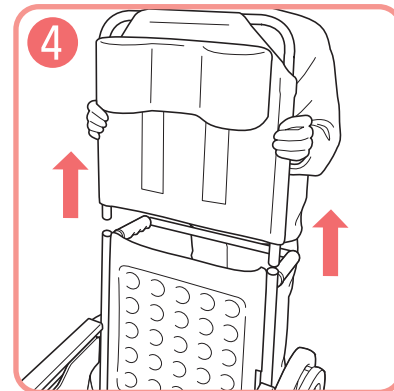
③ ロックレバーを倒す。(左右共)



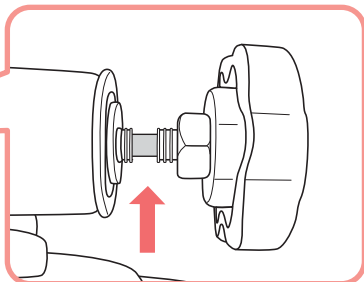
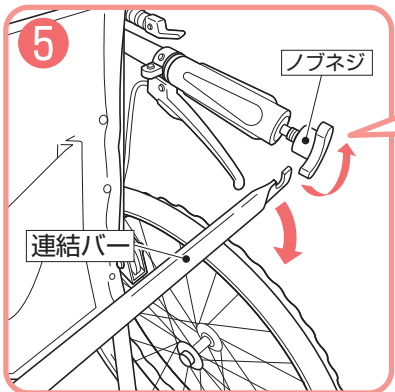
(解除した状態)



④ ヘッドサポートを外す。

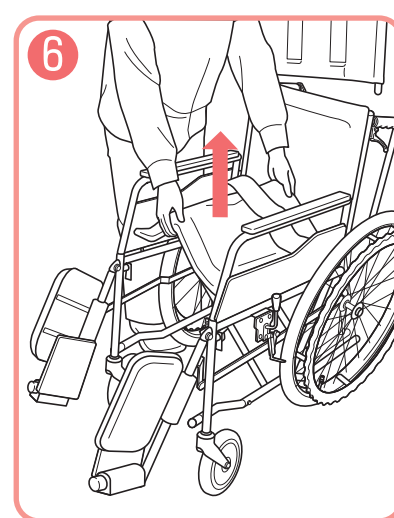


⑤ ノブネジを緩め、連結バーを外す。



ノブネジの細い部分に合わせて連結バーを外してください。

⑥ シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。



### ⚠ 注意

- リクライニングの連結バーが車輪（スポーク）にあたらないようにしてください。
- 外したヘッドサポートを無くさないようにしてください。

していただく

# 使用方法

## 乗り方・降り方



**警告**

●車いすに乗る・降りる前やベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。  
(車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく



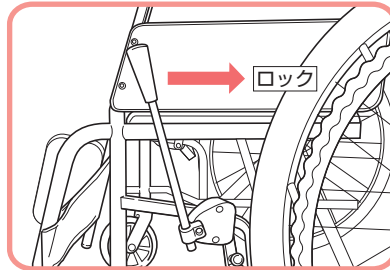
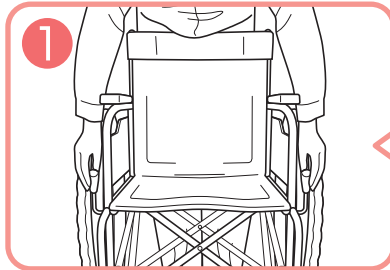
**注意**

●車いすの乗り降りときは、路面の平坦な場所で行ってください。  
(車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。)

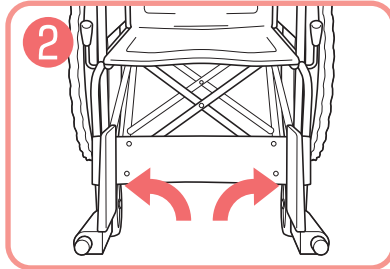
していただく

### 乗る時

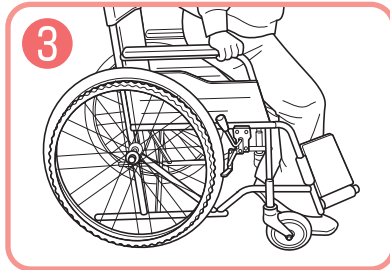
① 駐車用ブレーキを両側ロックする。



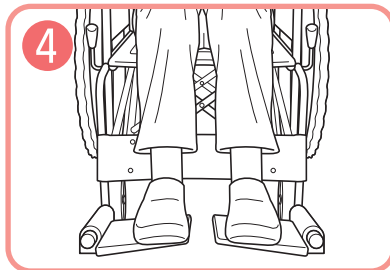
② フットサポートを両側上げる。



③ 両手で、アームサポートを持ちゆっくり座り込む。

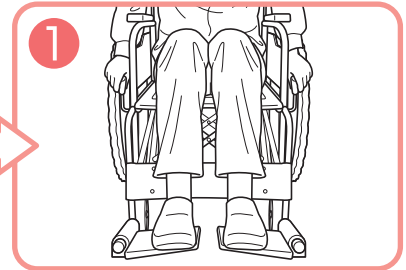


④ フットサポートに足を乗せる。

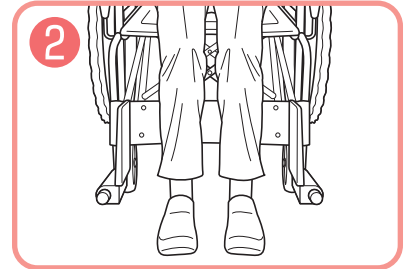


### 降りる時

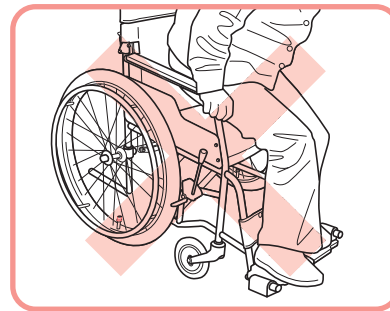
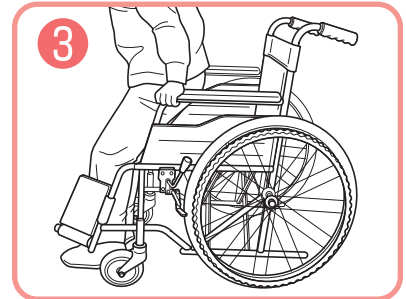
① 駐車用ブレーキを両側ロックする。



② フットサポートを上げ、足を下ろす。



③ 両手で、アームサポートを持ちゆっくり立ち上がる。



**警告**

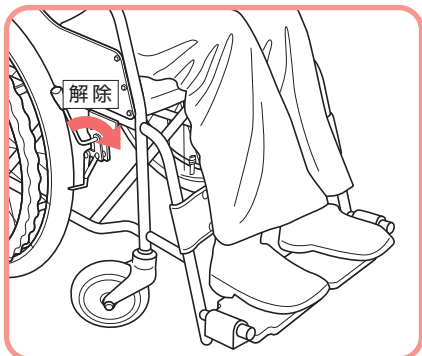
●フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。  
(車いすがバランスを崩し、転倒事故等の原因となります。)

してはいけない

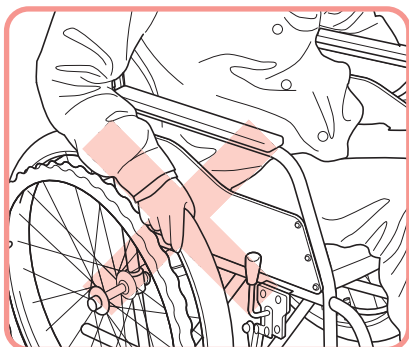
## 動かし方

### (自走用車いすの場合)

駐車用ブレーキのロックを解除する。



ハンドリムを握り車輪を回転させ移動させる。



#### ⚠ 注意

- タイヤを持って車いすを操作しないでください。  
(駐車用ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。)

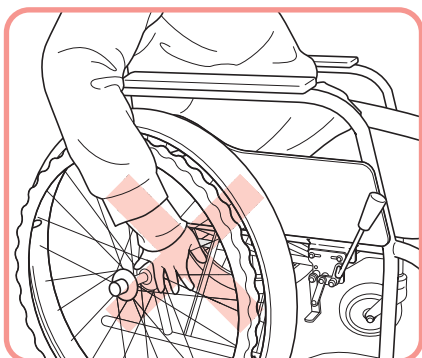
してはいけない

#### ⚠ 注意

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。  
(摩擦で手にケガをする恐れがあります。)

してはいけない

※このようなご使用をされる場合は、車いす用手袋〈別売〉をご使用ください。



#### ⚠ 注意

- 走行中、身体を乗り出さないでください。  
(バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。)

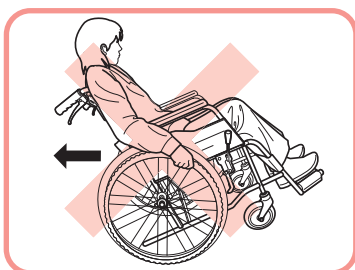
してはいけない

#### ⚠ 注意

- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。  
(手や指をはさんで、ケガをする原因となります。)

してはいけない

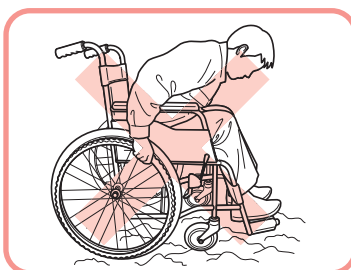
※このような場合にはオプションのスポークカバーの使用をおすすめします。



#### ⚠ 注意

- バックしながら急停止しないでください。  
(転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない



#### ⚠ 注意

- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。  
(バランスを崩し、前に転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない



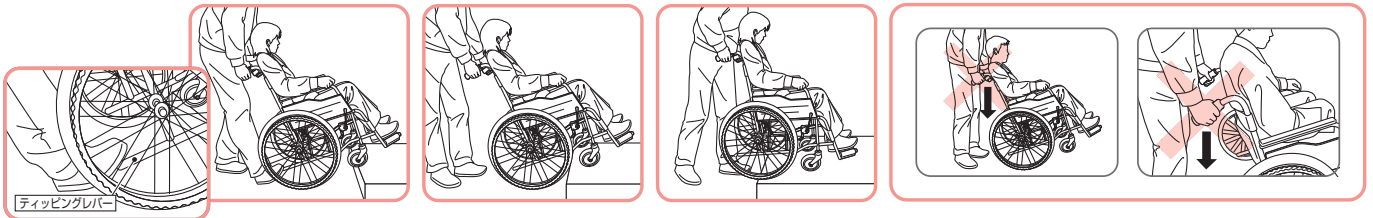
## 介助の仕方

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

- ・坂道の登り下り
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・電車への乗車、下車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行

介助者援助をお願いしてください。

介助者の方は、段差を乗り越える場合は、ティッピングレバーを踏んでキャストを上げ、段差に乗せてから、後輪を浮かし乗り越えてください。



### ⚠ 注意

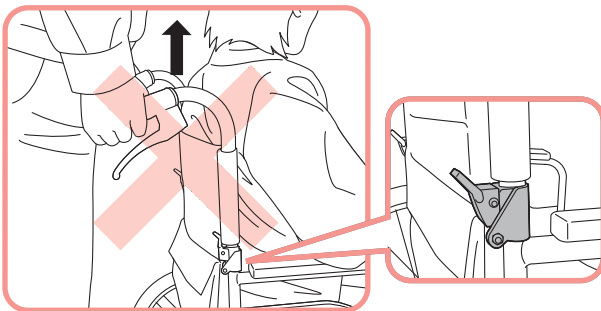
- バックサポートパイプ(グリップ)のみで、キャストを上げないでください。  
(バックサポートパイプが曲がったり折れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

### ⚠ 注意

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。  
(使用者が車いすから転倒・転落し事故等の原因となります。)

してはいけない



### ⚠ 注意

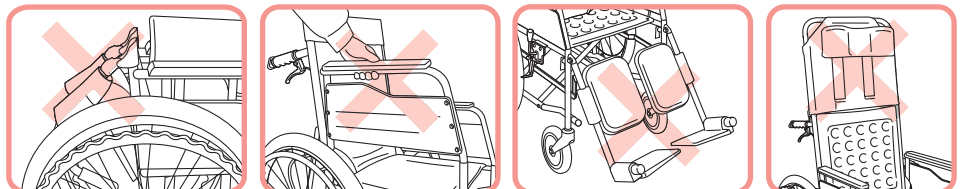
- バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って持ち上げないでください。  
(パイプが外れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

■階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に待ち上げてもらう場合  
ベースフレーム・バックサポートの固定されている箇所を持って、4~5人で支えてもらってください。

車いすを持ち上げようとして次のような箇所は、持たないでください。

- ・バックサポートが折りたたみ式のバックサポートパイプ部
- ・レッグサポートが取り外し式のパイプ部
- ・アームサポートが跳ね上げ式のアームサポート部
- ・レッグサポートがエレベーター式のアームサポート部
- ・フット・レッグサポートがスイングアウト式のフット・レッグサポート部
- ・バックサポートがリクライニング式のバックレストパイプ部



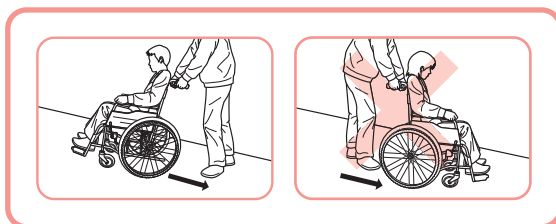
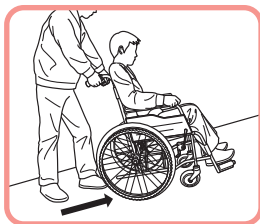
## 外出時の注意

介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。

登り坂

下り坂

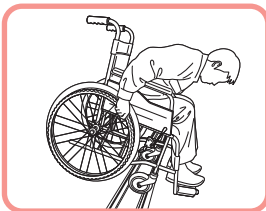
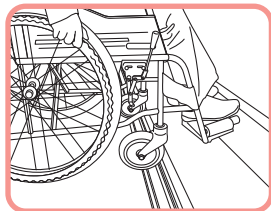
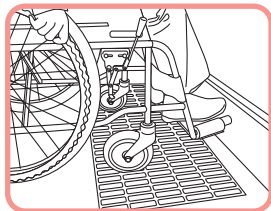


### ⚠ 注意

- 坂道を下るとき介助者は、下り坂の下側に立ち、確認しながら後ろ向きにゆっくりと走行してください。（前向きで下ると、乗っている人がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。）

していただく

介助者援助をお願いしてください。



### ⚠ 警告

- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。（車輪が溝にはまって、転倒・転落事故等の原因となります。）

していただく

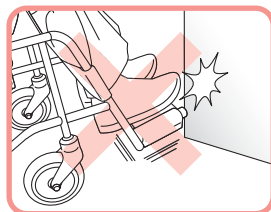
### ⚠ 注意

- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。（車いすが急に止まり、使用者の体が前方に傾き、転倒・転落事故等の原因となります。）

していただく

※このような、環境条件でご使用される場合は、ワイドキャスト(オプション)をご使用ください。

【介助者の方へ】



### ⚠ 注意

- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

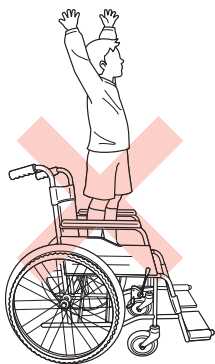
していただく

### ⚠ 注意

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

していただく

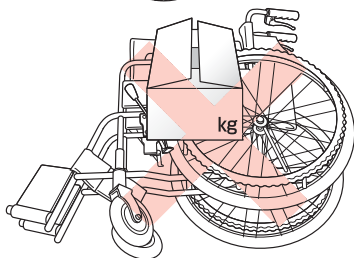
## その他の注意



### 警告

- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。  
(転倒・転落事故等の原因となります。)

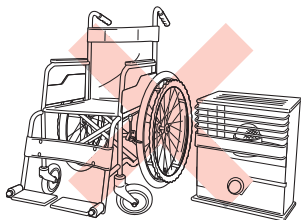
してはいけない



### 注意

- 車いすを横向きに倒して、上に物を置かないでください。  
(重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因になります。)

してはいけない



### 注意

- 火気の近くに置かないでください。  
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。)

してはいけない

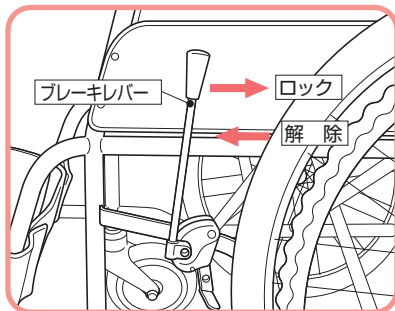
# 各部機能の使用法

## ブレーキの使用法

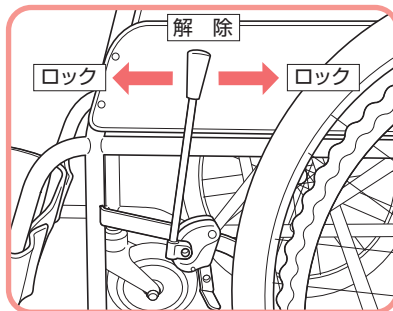
### 駐車用ブレーキ

- ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に引くと解除します。

(ミニタックル)

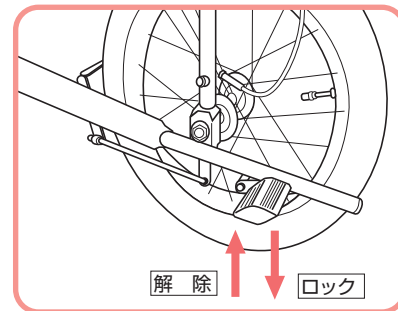


(ミニFB タックル)



(フットブレーキ)

ペダルを下に倒すとロックします。  
ロックした方向と反対に上げると解除します。



**警告**

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。  
(駐車用ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故の原因となります。)

してはいけない



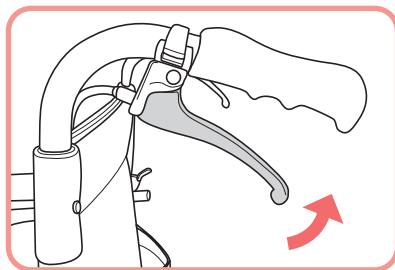
**警告**

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。  
(車いすが動き、転倒事故の原因となります。)

していただく

### 制動用ブレーキ

- レバーを握るとブレーキがかかります。
  - レバーを離すと解除します。
- \*REM-11は制動用ブレーキが標準装備ではありません。

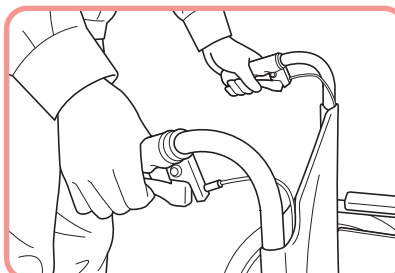


**注意**

- 急ブレーキをかけないでください。  
(車いすに乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。)

してはいけない

介助者の方が走行中や下り坂での速度減速及び停止に、ご使用ください。



**注意**

- 介助者の方は、制動用ブレーキレバーを、両側同時にかけてください。  
(バランスを崩し、転倒事故等の原因となります。)

していただく

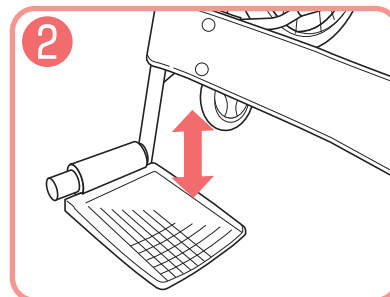
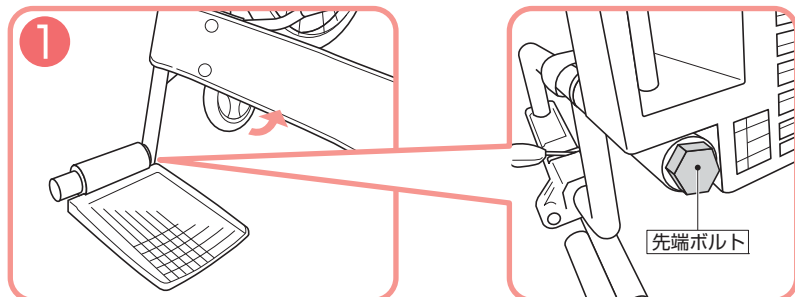
## フットサポートの高さ調整

### MWタイプ

対応機種:REM-1~6,11,12

- ① フットサポートを少し上げ、付属品のスパナで先端ボルトをフットサポートが少し動くところまで緩める。〈フットサポート裏側から見た図〉

- ② 高さを調整し、先端ボルトを完全に締める。



### 注意

- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。(フットサポートが脱落し事故等の原因になります。)

※適正トルク  
12.5Nm

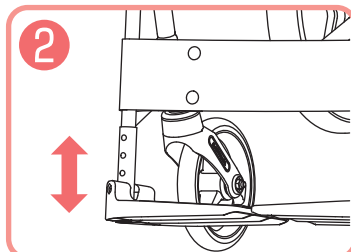
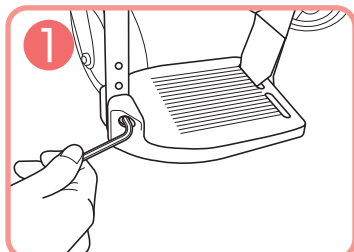
していただく

### MAタイプ

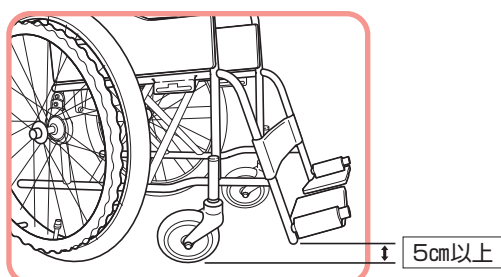
対応機種:REM-7~10

使用工具 ・対辺5mm 六角レンチ

- ① フットサポートのボルトを外します。 ② 高さを調整し、ボルトを締めます。



※適正トルク  
4Nm



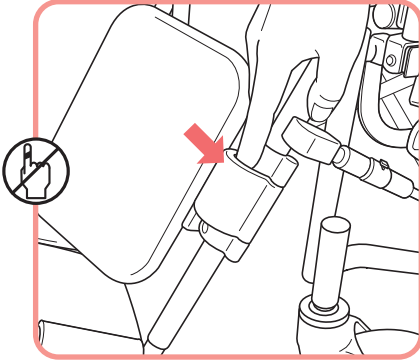
### 注意

- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒事故等の原因になります。)

していただく

## フット・レッグサポートエレベーター

- 使用者の身体状態に応じて、角度を調整することができます。  
また、ふくらはぎパットの位置(角度)を変更することができます。

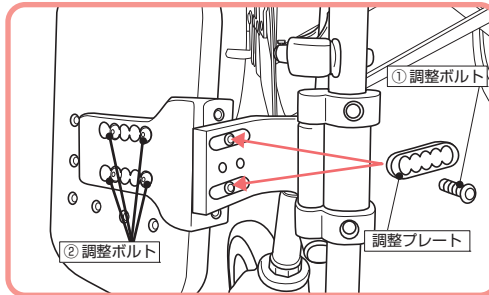


※ 指に注意

**注意**

● ふくらはぎパットを回転させたときに、手・指をはさまないように注意してください。

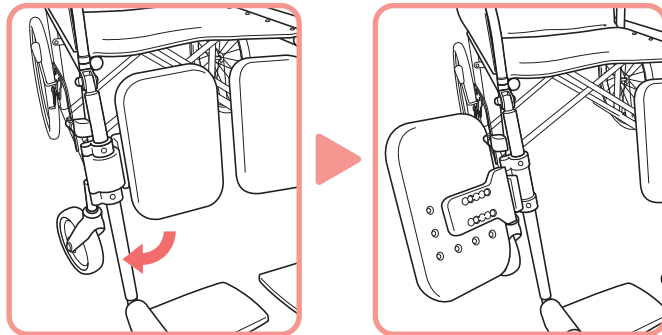
していただく



※ 適正トルク6Nm

### ふくらはぎパットの調整

- ふくらはぎパットを上下3段階、左右2段階、前後7段階に調整することができます。  
また、角度も-10, 0, +10度で変更できます。

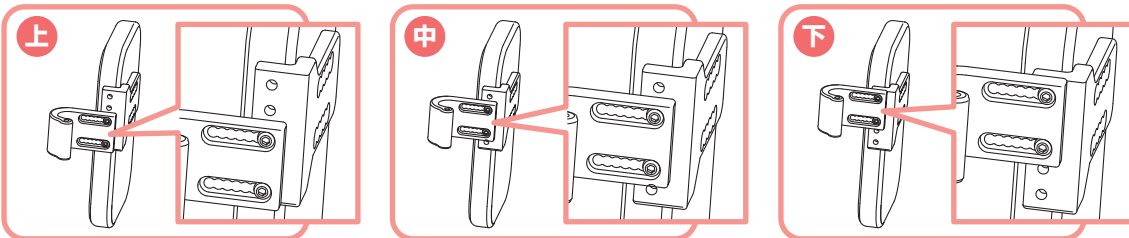


ふくらはぎパットを回転させてください。

- 下記のそれぞれの調整を組み合わせ、最適な位置に設定してください。

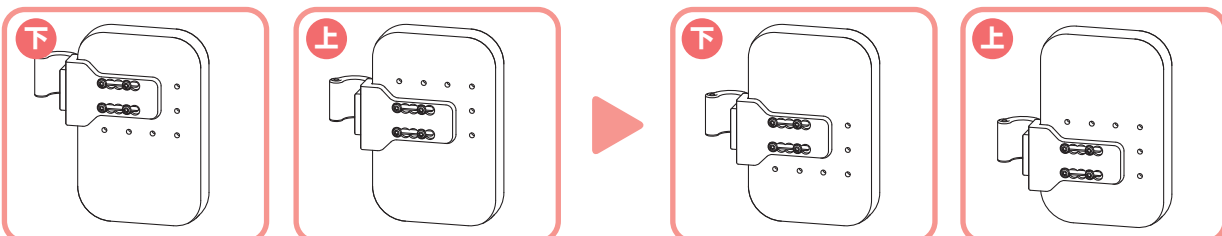
#### 基本的な上下調整

①の調整ボルトを取り外します。このとき調整プレートをなくさないようにしてください。下図のように3段階に調整ができます。



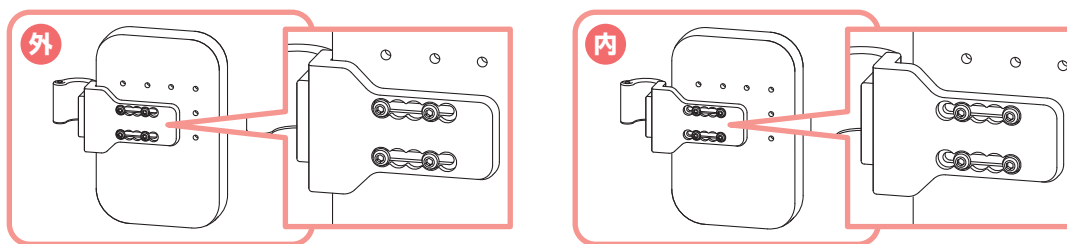
#### さらに上下調整する方法

②の調整ボルトを取り外します。下図のように2段階に調整ができます。さらにパットを上下入れかえると、調整範囲が広がります。



### 左右調整

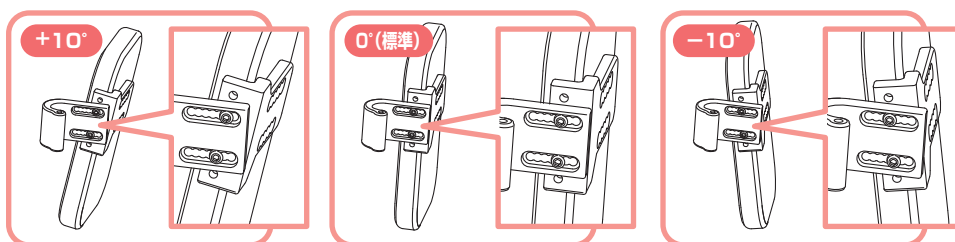
②の調整ボルトを取り外します。下図のように2段階に調整ができます。



※適正トルク  
6Nm

### 角度調整

①の調整ボルトを取り外します。このとき調整プレートをなくさないようにしてください。下図のようにボルトの取り付け位置を上下1つずらすと角度がつけられます。



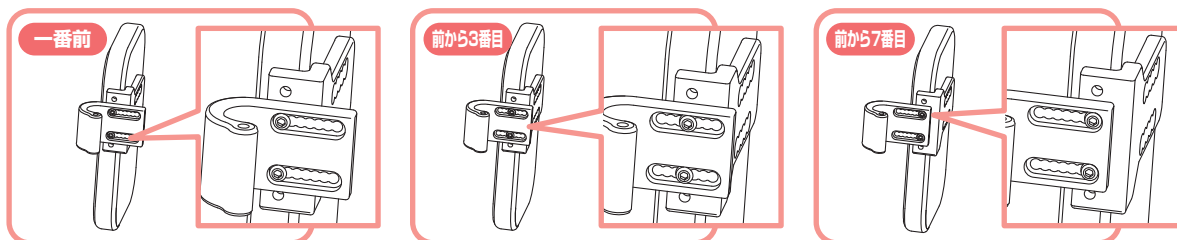
### 注意

- ①②の調整ボルトは必ずしっかりと締めてください。(ふくらはぎパッドが外れ、ケガをする恐れがあります。)

していただく

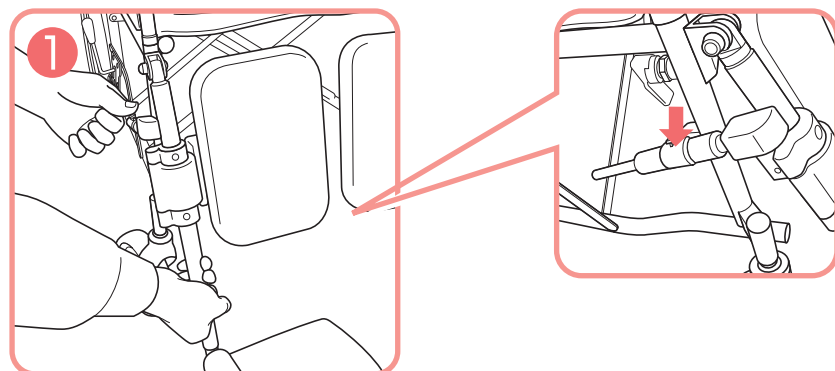
### 前後調整

①の調整ボルトを取り外します。このとき調整プレートをなくさないようにしてください。7段階に調整ができます。

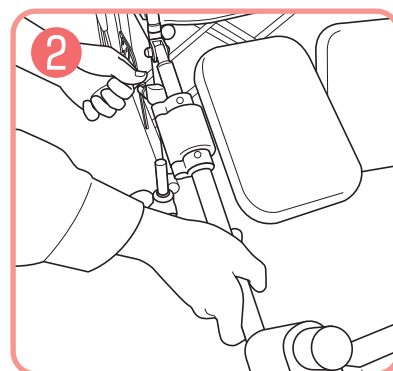


### 足角度調整

① 操作する側のフットパイプを持ちながら、ロックレバーを押し下さい。



② ロックレバーは押したまま、フットパイプを上げ(下げ) 適当な位置でロックレバーを離すと固定されます。



### 注意

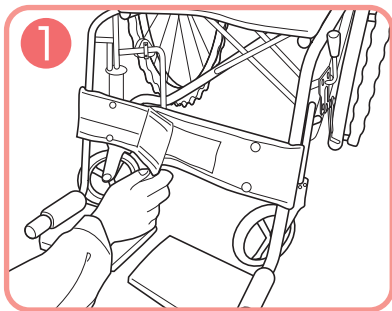
- エレベータリングのフットサポートに足が乗ったままの状態では操作する場合は、フット・レッグサポートパイプをしっかり支えて行ってください。(ロックを解除した時に、手をパイプに挟んでケガをする原因となります。)

していただく

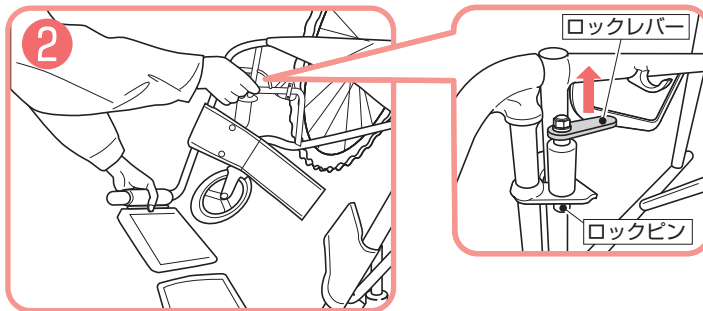
## レッグサポートスイングアウト

- スイングアウトしたり、取り外すことにより、トイレ・ベッドへの乗り移りがしやすくなります。又、片足こぎ操作されたりする時は、取り外すことにより、足元が広くなります。

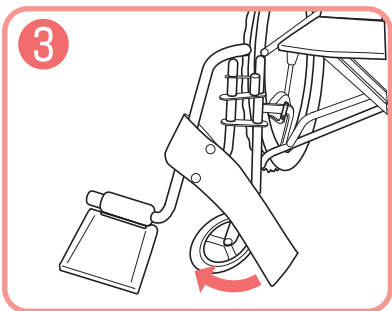
① レッグベルトのマジックを外す。



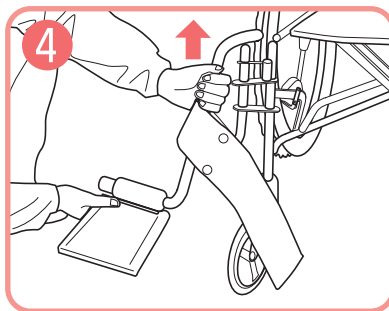
② ロックレバーを引き上げる。



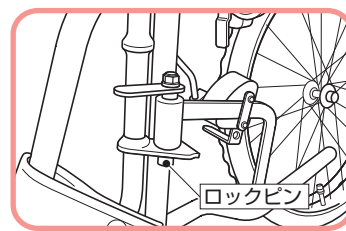
③ フットサポートを開くように外側に回転する。



④ フットサポートを上を持ち上げ外す。



- 取り付けは、取り外しと逆手順にて行ってください。



### ⚠ 注意

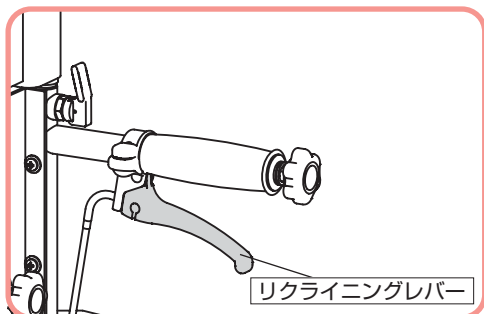
- スイングアウトをもどしたときは、ロックが確実にされているか確認してください。(足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。)

していただく

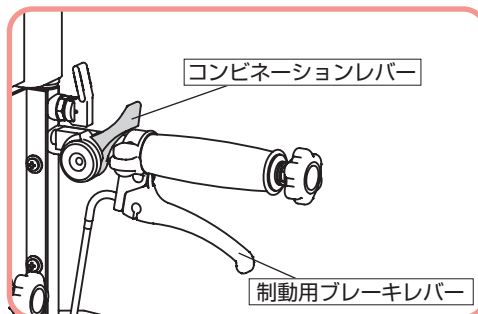
## バックサポートのリクライニング方法

- バックサポートの角度を調整することにより、身体状態に応じて合わせるすることができます。

対応機種:REM-11

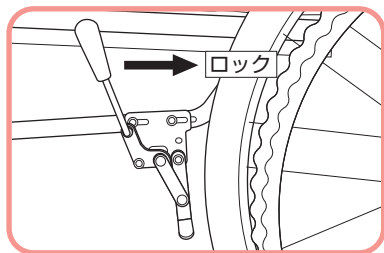


対応機種:REM-12

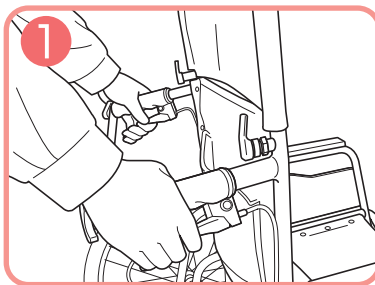




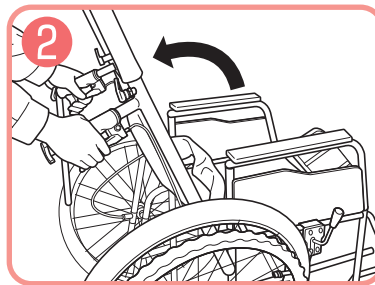
【注意】  
操作は駐車用ブレーキを  
ロックして行ってください。



① リクライニングまたは  
コンビネーションレバーを両側握る。



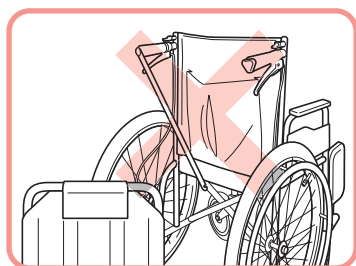
② バックサポート角度を調整し、  
位置が決まったら、レバーを離す。



**警告**

- リクライニングの角度調整をする時は、駐車用ブレーキをロックしてください。  
(車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。)
- リクライニングまたはコンビネーションレバーを左右同時に握りながら角度調整してください。  
(転倒・転落事故等の原因となります。)

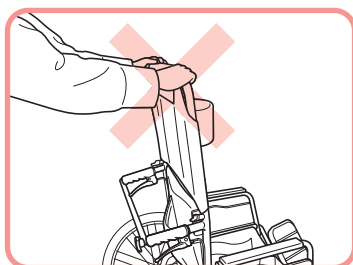
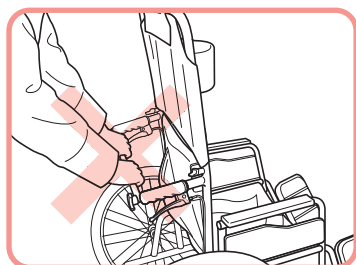
していただく



**注意**

- リクライニングの連結バーを外したまま、使用しないでください。
- リクライニングのヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。  
(転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。)

してはいけない



**注意**

- リクライニング車いすの連結バー・ヘッドサポート部を持って、走行しないでください。  
(外れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

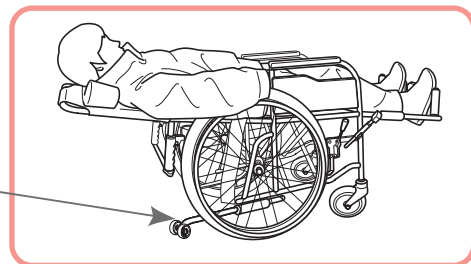
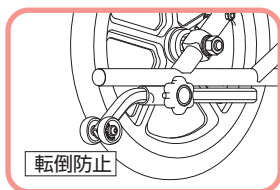


**注意**

- 車いすに使用者が乗っている状態で、リクライニング操作する時は、使用者の体重がバックサポートにかかっていますので、介助者はしっかり支えて行ってください。  
(操作したときに、急にバックサポートが倒れパイプで顔などを打ってケガをする恐れがあります。)

していただく

- フラット状態で使用する場合は、バランスを崩し後方に転倒する恐れがあります。危険防止のために、転倒防止をご使用ください。  
(転倒防止の使用法:P.25)



**注意**

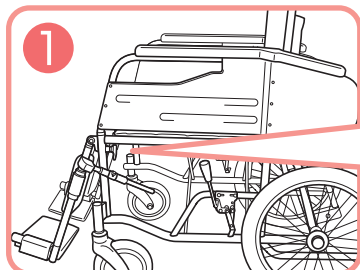
- 介助者は、人が乗った状態でリクライニングしたまま、放置しないでください。  
(バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

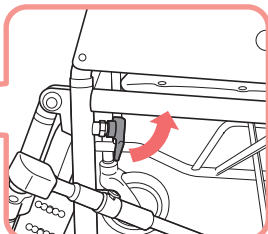
## アームサポート着脱

●両側のアームサポートが取り外しできるので、横からの乗り移りがしやすくなります。

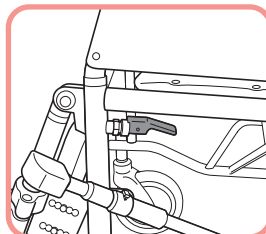
① ロックレバーを矢印方向に起こす。



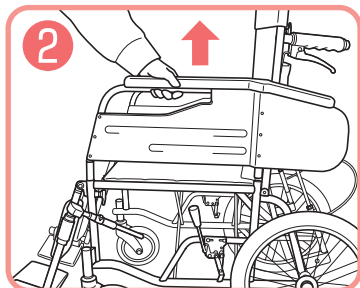
(ロックした状態)



(解除した状態)



② アームサポートの中央部分を真上に持ち上げて外します。



●取り付けは、取り外しと逆手順で行ってください。 ※前側のパイプから入れると、取り付けが簡単です。

**注意**

●アームサポートを取り付けたときは、ロックが確実にされていることを確認してください。  
(転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

**注意**

●アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。  
(ケガ、転倒・転落事故等の原因となります。)

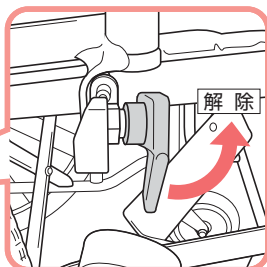
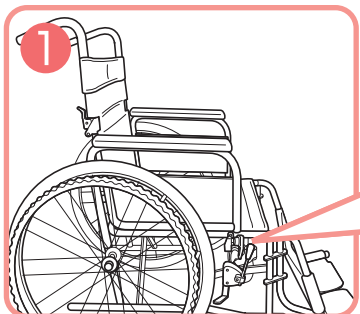
してはいけない

## アームサポート跳ね上げタイプ

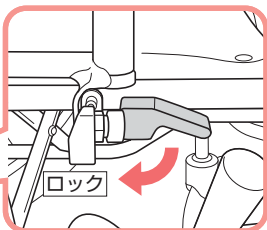
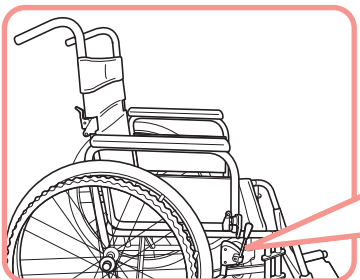
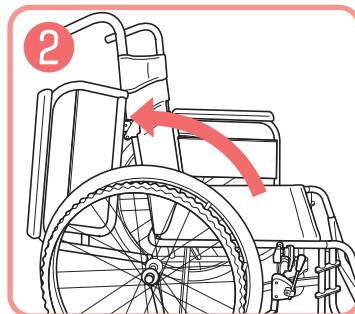
●両側のアームサポートが後方に跳ね上がりますので、横からの乗り移りがしやすくなります。

●介助の場合にも、アームサポートがじゃまにならず、楽に行えます。

① ロックレバーを矢印方向に起こす。



② アームサポートを後方に上げる。



**注意**

●アームサポート跳ね上げを、もどしたときは、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを確認してください。  
(転落事故等の原因となります。)

していただく

**注意**

●アームサポートを跳ね上げた状態でアームサポートに力を加えないでください。  
(破損等の原因となります。)

してはいけない

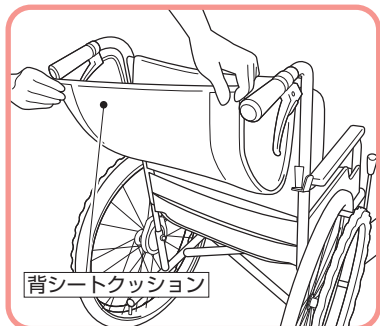
**注意**

●アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。  
(ケガ、転倒・転落事故等の原因となります。)

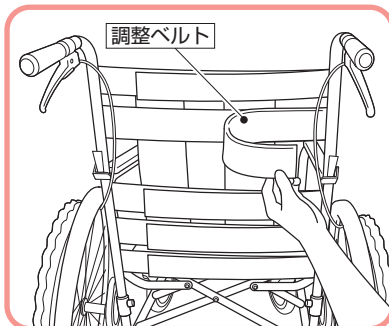
してはいけない

## 背調整マジックベルト張り調整

① 背シートクッションを外す。



② 背張り調整ベルトの各マジックテープを外し、ベルト調整をする。調整後は、背シートクッションを固定する。



### ⚠ 注意

- 調整マジックベルトのマジックテープは確実に固定して下さい。  
(固定が不完全な場合、シートが外れて転倒事故の原因となります。)

していただく

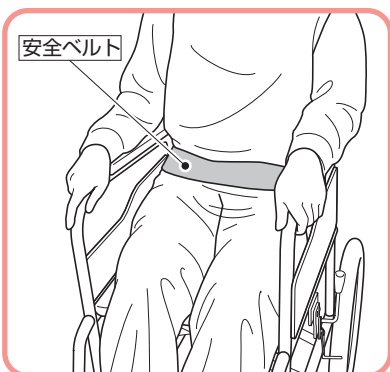
### ⚠ 注意

- マジックテープに付いた、糸くずや汚れを取り除いて下さい。  
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時、外れ転倒事故の原因となります。)

していただく

## 安全ベルト

●使用者が、車いすから転落したり、すり落ちるのを保護します。



### ⚠ 注意

- 安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。  
(衝撃などで転落し事故等の原因となります。)

していただく

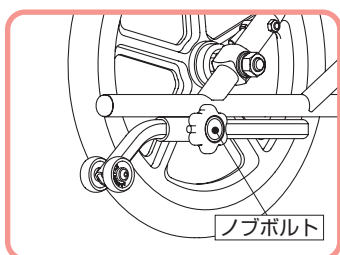
### ⚠ 注意

- 安全ベルトのマジック式は、糸くずや汚れを取り除いてください。  
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ転落事故等の原因となります。)

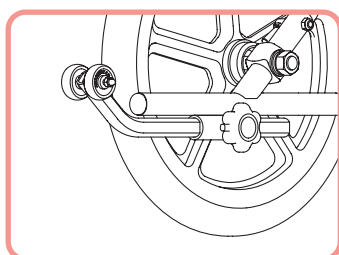
していただく

## 転倒防止

●車いすが後方へ倒れないようにします。  
使用しない場合は上下を逆にもできます。



〈使用する場合〉



〈使用しない場合〉

### ⚠ 注意

- ノブボルトは必ずしっかりと締めてください。転倒防止パイプが必ず奥まで入っているか確認してください。  
(転倒防止が外れ、役目を果たさない可能性があります。)

していただく

# もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて故障かな、と思うトラブルが発生したら、修理を依頼する前に下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のトップナットは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・スーパーバルブが劣化していませんか	スーパーバルブを交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪・キャストに髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
バックサポート折りたたみのロックピンが入らない	・車いすを上げて、バックサポートを折りたたみしていませんか	車いすを折りたたんで、行ってください
制動用ブレーキが効かない	・ワイヤーが、ねじれていませんか	ワイヤーのねじれを調整してください
	・ワイヤーの遊びが多くありませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください
リクライニング操作ができない	・ワイヤーのねじれ、ひっかかりがありませんか	ワイヤーのねじれ、ひっかかりを取り除いてください
	・使用者の体や小物などがはさまっていませんか	取り除いてください
	・車いすに人を乗せていませんか	車いすに人を乗せていない状態では、操作が重くなります

■故障、異常のある際は、直ちに使用を中止してください。

## 車いすのお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。

揮発性剤(シンナー・ベンジン・アルコール類)では、清掃しないでください。

変色したり、劣化の原因となります。

ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤの空気圧は、最適空気圧を適正に保ってください。

空気圧が低いときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン(O<sub>3</sub>) ●光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤(錆落とし含む))。

■車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。

そのままの状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・空気漏れ
- 各部固定部品の変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
- 駆動輪・キャストの変形
- ブレーキの効き具合

## 保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ
- 直射日光が当たるようなところ
- 湿気の多いところ
- 高温室になるところ
- 炎天下なところ

## 保証

- 保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)  
ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。
  1. 火災、天災による故障・損傷の場合
  2. 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
  3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
  4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、ワイヤー、ブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
  5. 修理に要した運賃等の諸経費
- この保証書は日本国内のみ有効です。

## アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。



株式会社 **松永製作所**

〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484  
TEL0584-35-1180(代) FAX0584-35-1270  
URL <http://www.matsunaga-w.co.jp>

## 車いす点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店(有料)で定期的に点検をしていただくようお願いいたします。

(長期間ご使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください)

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年月日				
		点検者				
キャスタ(前輪)	亀裂・キズの有無					
	キャスタの摩耗					
	スムーズな回転					
フォーク	損傷の有無					
	スムーズな旋回					
後輪	タイヤの空気圧(エアータイヤのみ)					
	タイヤの摩耗					
	スムーズな回転					
	ホイールのキズの有無					
	スポークの緩み					
フレーム	各部キズの有無					
	ボルト・ナットの緩み					
	スムーズな折りたたみ					
ブレーキ	ブレーキの効き					
シート	シートの破れ・損傷					
	シート固定ネジの緩み					
フットサポート	固定ボルトの緩み					
	プレートの破損					
アームサポート	固定ボルトの緩み					
	パッドの破損					
その他						

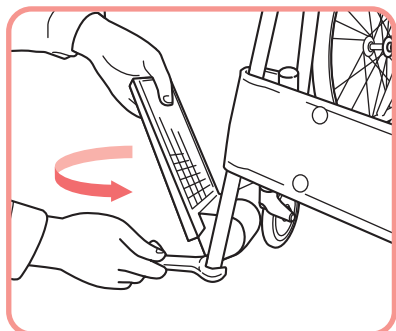
■異常のある際は、ただちに使用を中止してください。

MEMO

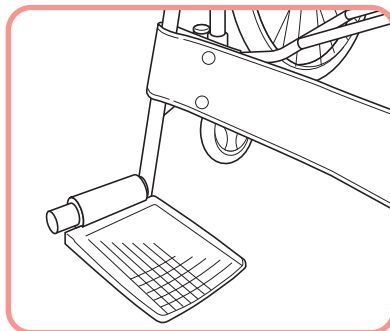
A series of horizontal dashed lines for writing.

**対応機種:REM-1~6、11、12**

- お買い上げ時(梱包時)にはフットサポートが収納されていますので、使用する前に、前方に出してください。
- フットサポートの高さ調整を行う時は、P.19をご覧ください。



フットサポートを付属品の  
スパナにて、先端ボルトを少し  
動くところまで緩める。



フットサポートを回転し、  
高さ調整を行い先端ボルトを  
完全に締める。

**使用工具** ・スパナ

**※適正トルク  
12.5Nm**

愛の輪  
愛のいす



MATSUNAGA

株式会社 松永製作所

〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484  
TEL0584-35-1180(代) FAX0584-35-1270  
URL <http://www.matsunaga-w.co.jp>